記事で振り返るわたSHIGA輝く国スポ・障スポ

10月26日付

滋賀障スポ開幕

14競技、6千人参加

開会式で晴れやかな表情で入場する滋賀県選手団＝25日午前10時40分、彦根市・平和堂ＨＡＴＯスタジアム＝撮影・松村彦

第24回全国障害者スポーツ大会の開会式が25日、彦根市の平和堂ＨＡＴＯスタジアムで催され、3日間にわたる障害者スポーツの祭典が開幕した。都道府県・政令指定都市の61選手団約6千人が集い、個人、団体の14競技を実施する。滋賀県での開催は、前身となる1981年の全国身体障害者スポーツ大会以来、44年ぶり。（16、22、23、25面に関連記事）

障スポは、スポーツの楽しさを通じて社会参加を後押しするとともに、障害への理解を広めることを目的とする。開会式には秋篠宮さまが出席され、選手や監督ら約3千人近くが参加した。

4人余りの観客が見守る中、南から順に各選手団が入場し、最後に地元滋賀が登場、バレーボール身体障害の部に出場する旗手の石川佳寿美選手（滋賀チームバレーボールクラブ）を先頭に、選手らは風雨の小康を振って歓声に応えるなど、晴れやかな表情で進んだ。

三日月大造知事が宇野憲一郎実行委員長に手渡された「うみのこ」を掲げ、東京とパリのパラリンピック競技男子七金メダルの木村敏一選手＝東京都出身、東京パラのトライアスロン男子七銀メダルを獲得した宇田秀生選手＝甲賀市出身＝の4人が務めた。

8月に開幕した国民スポーツ大会から引き継いだ炬火台にも火。

秋篠宮さまは、手を振ったり、手拍子をしたりしながら選手団の入場を見守った。観覧席を埋めた約2千人の観客からは、選手団が通るたびに、拍手や歓声が沸き、会場を盛り上げた。

選手宣誓はフットフットボールの北川大翔選手（長浜北星高等養護）と陸上の縄田唯衣選手が高らかに宣誓した。

2人は2カ月ほど前に宣誓の依頼を受けたという。縄田選手は「初出場の自分でよいのかと不安になった」ものの「地元開催で宣誓できることは二度とないかな」との思いで引き受けたという。北川選手と一緒に練習し、本番に臨んだ。

大役を終えた縄田選手は「緊張したが、選手代表としてみんなの思いを背負う気持ちでできた。多くの応援を力に変えて頑張りたい」と意欲を語った。（今野孝）

選手宣誓する北川大翔選手（中央左）と縄田唯衣選手＝撮影・吉原直歩

「共生社会実現へ全力」

北川、縄田選手 宣誓高らか

「障害に対する理解を深め、多様性が尊重される社会の実現に向け、最後まで手力を尽くし、競技することを誓います」。選手を代表し、フットフットボールの北川大翔選手（長浜北星高等養護）と陸上の縄田唯衣選手が高らかに宣誓した。

2人は2カ月ほど前に宣誓の依頼を受けたという。縄田選手は「初出場の自分でよいのかと不安になった」ものの「地元開催で宣誓できることは二度とないかな」との思いで引き受けたという。北川選手と一緒に練習し、本番に臨んだ。

大役を終えた縄田選手は「緊張したが、選手代表としてみんなの思いを背負う気持ちでできた。多くの応援を力に変えて頑張りたい」と意欲を語った。（今野孝）

開会式に出席された秋篠宮さま夫妻＝25日、彦根市・平和堂ＨＡＴＯスタジアム＝撮影・笠原英介

「障害者の社会参加促進を」

秋篠宮さま夫妻、出席

秋篠宮さまと妃殿下は、彦根市の平和堂ＨＡＴＯスタジアムで開かれた第24回全国障害者スポーツ大会の開会式に出席された。秋篠宮さまは、選手が練習の成果を発揮することに期待を示すとともに、障害のある人々に対する理解が深まることに期待を寄せられた。

秋篠宮さまは、「障害者の社会参加が促進されることを祈念します」と述べた。

秋篠宮さまと紀子さまは、手を振ったり、手拍子をしたりしながら選手団の入場を見守った。観覧席を埋めた約2千人の観客からは、選手団が通るたびに、拍手や歓声が沸き、会場を盛り上げた。

この日、選手たちは、「三重県」と書かれたプラカードを掲げ、「三重県」と書かれたTシャツを着て、「三重県」と書かれたバナーを掲げるなどして、三重県の応援団に手を振るなどした。

「障害者が自分で考えて、自分で行動することが、社会参加の第一歩」と強調された。

秋篠宮さまは、「障害者スポーツ大会が、障害者の社会参加の促進に役立つことを期待します」と述べた。

秋篠宮さまは、「障害者スポーツ大会の開会式に出席することを楽しみにしています。選手の皆さんが、日ごろの練習の成果を発揮されることを期待しています。この